

臨床腫瘍学

科目責任者 植木 敬介

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

日本人のがんによる死亡率は、現在年間30万以上である。さらに、がん発症者の数で言えば、その倍の50～60万人となる。今後、高齢化に伴い、がん患者は増加すると思われる。2006年には「がん対策基本法」が成立し、翌年に施行された中、本科目では、最新のがん治療や病理診断、緩和医療等について、各専門分野から講義を行う。

II. 担当教員

III. 一般学習目標

腫瘍の病理、診断、治療、緩和医療等について理解し、診療の基本的事項を修得する。

IV. 学修の到達目標

- 1) 腫瘍の定義・分類について説明できる。
- 2) がんの治療方法について説明できる。
- 3) 緩和医療の基本について説明できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

(1: 反転授業形式 (事前学習用動画等の教材を前もって配付する。原則として授業中に事前学習の内容に関する小テストを行い知識の確認を行う。))

2: ディスカッション 3: グループワーク 4: 実習 5: プレゼンテーション 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブラーニング
1	6	7	月	3	がんの薬物治療	総合がん診療センター・ 呼吸器外科学 石濱 洋美	1
2		7	月	4	がんの生物学	内科学 (血液・腫瘍) 三谷 絹子	1
3		30	水	3	がんの病理学	病理診断学 中里 宜正	
4	7	1	木	6	がんの放射線治療	放射線治療センター 放射線医学 江島 泰生	1
5		5	月	2	がんの緩和医療	麻酔科学 山口 重樹	1
6		5	月	3	がんの集学的治療, まとめ	総合がん診療センター・ 脳神経外科学 植木 敬介	1

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

出席状況 (20%) や試験 (80%) により、総合的に評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

特に指定しないが、必要に応じて連絡する。

VIII. 質問への対応方法

事前にアポイントを取った上で、対応する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	◎
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	◎
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

VIII. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の結果を講評・解説します。

IX. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

X. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。